

こく じゃく い せき
石 勺 遺 跡 (G地点)

大野城市教育委員会



堅穴住居跡

石勺遺跡は大野城市役所周辺に広がる遺跡です。この付近の土地区画整理事業に先立って行った試掘調査で見つかりました。1988（昭和63）年から1997（平成9）年まで10回の発掘調査を行い、縄文時代早期・晩期、弥生時代中期・後期、古墳時代中期、中世、近世の遺構や遺物が見つかりました。今のところ弥生時代中期（約2100年前頃）の遺構や遺物が最も多いようです。

調査した場所は順にA～J地点としていますが、G地点としたのは「まどかびあ」建設前に調査した場所のことで、ここからは主に弥生時代中期の堅穴住居跡、貯蔵穴、大溝などが見つかり、集落の跡であることがわかりました。



大溝



大溝断面

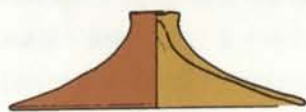


土器出土状態

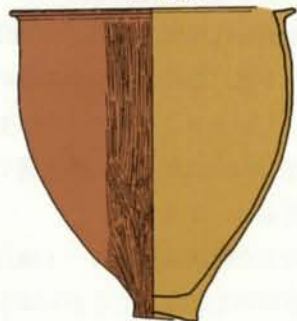
見つかった竖穴住居跡は前のページに示すような長方形の形をしたものです。床から甕の破片と、ほとんど壊れていない小さな壺が見つかりました。

調査した場所の中央部で、ほぼ南北方向に伸びる大きな水路跡（大溝）が出てきました。60m分見つかりましたが、端はまだまだ伸びそうで、どのくらい続くのかはわかりません。断面は台形をさかさまにしたような形で上側の幅が約2.2m、底での幅が0.6m、深さ約0.85mの大きさでした。床の標高を調べると、北の方が高くなっていましたので、水は北から南へ流れたと思われます。

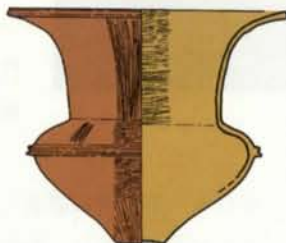
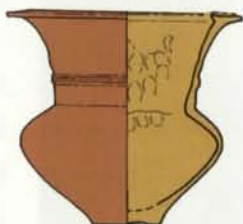
この大溝からは左の土器出土状態の写真に示すように、大変多くの弥生土器が見つかりました。パンを入れるような箱で約25箱分になりました。食糧などを貯蔵したと考えられる壺や鉢、煮たきに使ったと思われる甕、おそなえ物をしたのかと思われる高杯、壺の台と考えられる器台などが含まれていました。



蓋 (ふた)



甕 (かめ)



壺 (つぼ)



高杯 (たかつき)



甕 (かめ)



器台 (きだい)



鉢 (はち)



壺 (つぼ)



器台 (きだい)